

「こおりやまの米」通信



郡山市
イメージキャラクター
「かくとくん」

編集:郡山市
JA福島さくら郡山地区本部 (TEL.921-0533)
NOSAI福島郡山田村支所 (TEL.933-3307)
県中農林事務所農業振興普及部 (TEL.935-1310)
発行:郡山市農作物生産対策協議会 (郡山市園芸畜産振興課 TEL.924-3761)

Vol.6 中干し・カメムシ対策

こおりやまの米通信

検索

*最新号はJA各支店窓口にてそなえつけてあります

1 生育状況 ~ 平年並みからやや遅れた生育となっています ~

(1) 生育概況

平坦部では草丈が短く、茎数は少ない傾向にあります。
また、葉齢の進捗も平年より遅れています。

(2) 病害虫発生状況 (6月30日)

いもち病: 平年に比べ発生はやや少ない状況でした。
カメムシ類: 平年に比べ発生が多い状況です。

※6月の低温の影響で稲がチツソを十分に吸収できず、葉色は平年より遅れて濃くなっています。今後、高温になるとともに土壌に残ったチツソの利用が活発になると考えられるため、穂肥までのつなぎ肥は必要ありません。

また、幼穂形成期も2~3日程度遅れると見込まれるため、今後の水管理には十分注意しましょう。

6月30日 生育調査結果

品種 (調査地点)	年次	草丈 (cm)	茎数 (本/m)	葉齢	葉色
コシヒカリ (三穂田)	本年 平年比 (%)・差	44.1 8.4	477 89	9.2 +1.1	4.0 +0.2
ひとめぼれ (片平)	本年 平年比 (%)・差	41.1 8.6	573 90	8.6 -0.1	5.0 +1.6
天のつぶ (三穂田)	本年 準平年比 (%)・差	41.7 8.3	555 111	9.2 +0.9	5.5 +1.2
あきたこまち (湖南)	本年 平年比 (%)・差	40.7 10.2	451 100	8.0 -0.2	5.3 1.4

※葉色はカラースケール値

【管内主要品種の生育の目安】

品種	幼穂形成 始期 (予想日)	出穂期 (平年値)	乳熟期 (予想日)
ひとめぼれ	7月10日	8月4日	8月11~14日
あきたこまち (湖南)	7月11日	8月5日	8月12~15日
天のつぶ	7月12日	8月6日	8月13~16日
コシヒカリ	7月17日	8月11日	8月18~21日

※出穂期: 全穂数の約半分が出穂した日

※幼穂形成始期: 主茎3本の80%以上の幼穂が1mmに達した日

※乳熟期: 籾を指で押しつぶすと乳液状の時期

【高温が続く天気予報となっています】

- ・昨年、紋枯病が発生した田んぼでは早期防除に努めましょう。
- ・出穂期には中干しを終え、湛水するようにしましょう。また、出穂後高温が続くようであれば、可能な限り入水し地温を下げましょう。
- ・カメムシの発生が早まる可能性があります。早めの草刈り・防除対策を心掛けて下さい。

病害虫の初発は車の中からの観察では気づくことができません。ほ場の中でよく観察し、早期の対策をとれるようにしましょう。



日	月	火	水	木	金	土
7/2	3	4	5	6	7	8
幼穂形成期までに中干し終了		中干し後は間断かん水 (低温時は深水管理)				
9	10	11	12	13	14	15
いもち防除(粒剤)(散布後は7日間以上止水)						
穂肥 ひとめぼれ		穂肥 天のつぶ		穂肥 あきたこまち(湖南)		
間断かん水						
16	17	18	19	20	21	22
除草						
間断かん水						
23	24	25	26	27	28	29
除草		穂肥 コシヒカリ		間断かん水		

※おおよその栽培管理の目安です。田植え日の違いや実際の天候により変動する可能性があるため、ほ場をよく観察し、適期に栽培管理を行いましょう。

平成30年作付用水稲種子の受付が始まっています。来年度は、優良な種子が用意され、また助成金で優遇される飼料用米専用品種「ふくひびき」に取り組みしましょう。ご注文はお早めに!! 詳しくはお近くのJA各支店へお問い合わせください。

【注意報発表中！斑点米カメムシ類が平年より多く確認されています！】

2 カメムシ類対策 ～適期防除で全量1等を目指しましょう！～

(1) 畦畔雑草の管理：2～3回の草刈りで幼虫・成虫ともに大幅に密度が低下します。

ただし、出穂期前後はカメムシを水田内に追い込む場合があるので、草刈りは出穂10日前までとします。

(2) 1回目の防除：粉剤、液剤等による防除は、乳熟期を基本とします。粒剤を使用する場合は、穂揃期～乳熟期に湛水状態で散布します。

(3) 追加防除：その後も発生が見られる場合は7日おきに追加防除を行いましょう。

割れ粉はカメムシによる吸汁を助長します。割れ粉の発生しやすい品種（あきたこまち、天のつぶ）では、出穂20日後頃の追加散布が重要ですので、乳熟期と出穂20日後の2回散布を基本にしましょう。

薬剤名	使用量	使用回数	使用時期
MR.ジョーカー 粉剤DL※1	3～4kg/10a	2回以内	収穫 7日前まで
スタークル 粒剤※2	3kg/10a	3回以内	
キラップ フロアブル	1000～2000倍、 60～200L/10a	2回以内	収穫 14日前まで

※1 蚕に対する毒性の強い農薬です。使用規制地域を確認のうえ使用しましょう。
※2 スタークル剤は粒剤以外の粉剤、液剤10、顆粒水溶剤は飛散リスクがあり、蚕に対する毒性の強い農薬です。使用規制地域を確認のうえ使用しましょう。



刈り払い機の使用前には、刈刃のヒビや固定を確認しましょう！

3 穂肥 ～出穂25日前の生育状況で判断しましょう～

(1) ひとめぼれ、あきたこまち、天のつぶは、出穂25日前にチッソ成分2kg/10aを基本とします。

コシヒカリは、倒伏しやすいので出穂15日前にチッソ成分2kg/10aを基本とします。有機質肥料の場合は、ゆっくり効くので、5日程度早く施用しましょう。

(2) 出穂25日前に生育を確認し、草丈が長く葉色の濃い場合は、穂肥の量を減らすか時期を少し遅らせましょう。

また、出穂5日前以降の実肥は、玄米タンパク質が高まり食味が低下するので行わないようにしましょう。

(3) 幼穂長による出穂前日数の判定方法は右表のとおりです。出穂期は天候により変化しますので幼穂長を確認しましょう。

(4) 基肥一発肥料の場合は、原則として穂肥は行いません。

適正な穂肥を実施し、倒伏による放射性物質汚染を防ぎましょう。

出穂25日前の生育の目安

品種	草丈	葉色 (カースケール)
ひとめぼれ	60～65cm	3.5～4.0
コシヒカリ	65～70cm	3.0～3.5
あきたこまち	55～60cm	3.5～4.0

出穂まで日数の判定方法

幼穂長	出穂前日数	備考
1mm	25日	幼穂形成始期
2mm	20日	
8-15mm	18日	止葉抽出
40-60mm	14日	
80mm	12日	減数分裂期

4 いもち病対策 ～常発ほ場では早めの防除を！～

いもち病に感染しやすい気象条件となっています。

注意してほ場を観察してください。

(1) 早期発見・早期防除につとめ、葉いもちの病斑を発見したらすぐに液剤や粉剤等で防除しましょう。

(2) 穂いもち予防する場合は、コラトップ粒剤5 (3～4kg/10a:出穂30～5日前まで) 等を散布しましょう。

おいしいお米とは？ No. 6

「チッソ」を過剰に施用すると食味が低下することは広く知られていますが、他の必須元素である「リン酸」、「カリ」を過剰に施用した場合は食味にどのような影響を与えるのでしょうか？

リン酸を含む肥料を過剰に施用すると、食味は落ちる傾向にあります。これはリン酸を吸収した稲の養分吸収量が高まり、チッソ成分を余分に吸収するためと考えられています。

また、カリは震災以前に比べ多量に施用されていますが、放射性物質対策として散布される範囲内の施用量であれば食味には全く影響を与えません。

リン酸、カリのいずれも、チッソに比べると食味に与える影響は極めて小さいと言えます。稲の生育には絶対に必要な必須元素でありますので、不足しないよう適切に補給するようにしましょう。

熱中症にご注意！！

曇りや雨の日でも熱中症になる可能性はあります。こまめな休憩と水分（塩分も）補給を意識的に行うよう心掛けてください。

